



平成 28 年 11 月 2 日

各 位

会 社 名 サッポロホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 上條 努
コード番号 2501
上場取引所 東証・札証
問合せ先 コーポレートコミュニケーション部長 梅里俊彦
TEL 03(5423)7407

サッポログループ長期経営ビジョン「SPEED150」 および第一次中期経営計画 2020 の策定

サッポロホールディングス株式会社は、グループ創業 150 周年となる 2026 年までの 10 年間に、当社が進むべき方向性と、2017 年から 2020 年までの 4 年間で取り組む基本戦略をまとめた「サッポログループ長期経営ビジョン『SPEED150』」および「第一次中期経営計画 2020」を策定しました。

I. サッポログループ長期経営ビジョン「SPEED150」

経営理念および経営の基本方針は踏襲しながら、スピードを持って経営改革と事業成長に取り組むことで実現させる「2026グループビジョン」と「行動指針」を定めました。

グループの成長の源泉は、創業以来140年の歴史の中で培われた「ブランド資産」であると改めて認識した上で、グループのコア事業を『酒』『食』『飲』の3分野と位置づけ、不動産事業とともにグループ保有のブランドを育成・強化していきます。国内に数多ある食品企業の中でも、『酒』『食』『飲』の3分野を展開するユニークな強みを活かし、特長ある商品・サービスをグローバルに展開し、お客様との接点拡大を図ることで、力強い成長を目指します。

【経営理念】

潤いを創造し 豊かさに貢献する

【経営の基本方針】

サッポログループは、ステークホルダーの信頼を高める誠実な企業活動を実践し、持続的な企業価値の向上を目指します

【2026グループビジョン】

サッポログループは
世界に広がる『酒』『食』『飲』で
個性かがやくブランドカンパニーを目指します

【行動指針】

1. イノベーションと品質の追求による新たな価値の創造で、世界のお客様のより豊かな生活に貢献します
2. お客様同士のコミュニケーション活性化に役立つ商品・サービスの提供とブランド育成に努めます
3. 環境変化に対応し、効率的な経営の実践に努めます

また、当社は経営理念に基づく企業活動を通じて、あらゆるステークホルダーとのコミュニケーションを深め、情報発信力を強化することで、当社の存在感を高めながら、満足度向上を目指していきます。

II. 第一次中期経営計画 2020

1. 基本方針

「異次元スピードの変革」をテーマに、成長ステージへの早期移行を目指します。

(1) 事業活動

各事業の競争領域を見定め、「継続成長」「成果創出」を実現して、キャッシュ創出力を高めます。

- ① 既存事業の継続的成長 既存5事業での競争領域を見定めた確実な成長
- ② 投資事業の成果創出 ベトナム事業、北米飲料事業、食品・飲料事業での収益性向上
- ③ 成長機会の獲得 『食』分野の拡大とグローバル展開に経営資源を投入し成長機会を獲得

(2) グループ経営

「経営資源の戦略的シフト」「セグメント経営の事業構造変革と推進」による基盤強化を主導します。

- ① 成長実態に適したグループ体制と本社機能の最適化の実行
- ② 基盤機能の強化
 - R&D 『食』分野の成長に向けたリソース（人財、研究開発費）の増強
 - 人事・人財 成長領域への人財シフトと健康増進への取り組み
 - 財務 資産効率の向上とモニタリング強化による財務基盤強化

2. 経営目標

(1) 2020年定量目標

売上高：2010年以降連続している「売上高成長」を継続

営業利益：第一次中期経営計画期間中にグループ史上最高益を更新

＜事業セグメント別定量目標＞

（※営業利益はのれん償却前）

	2016年見込		2020年目標		増減率	
	売上高	営業利益※	売上高	営業利益※	売上高	営業利益※
全社合計	5,477億円	240億円	6,400億円	340億円	116.9%	141.7%
国内酒類	2,880億円	111億円	3,150億円	140億円	109.4%	126.1%
国際	647億円	23億円	790億円	50億円	122.1%	217.4%
食品・飲料	1,364億円	36億円	1,620億円	65億円	118.8%	180.6%
外食	282億円	9億円	320億円	16億円	113.5%	177.8%
不動産	228億円	100億円	250億円	120億円	109.6%	120.0%
新規その他	76億円	2億円	270億円	9億円	355.3%	450.0%
全社	—	▲41億円	—	▲60億円	—	—

(2) 財務指標

成長ステージでの環境変化や投資機会に即応できる財務基盤構築に向け、以下の指標を設定します。

＜2017年～2020年の4年間で実現させる財務指標＞

営業活動による キャッシュフロー	1,800億円	「基盤機能強化」および「既存事業の継続的成長」と「投資事業の成果創出」によりキャッシュフローを創出する。
投資活動による キャッシュフロー	1,300億円	
有利子負債	D/Eレシオ1倍程度を目安とする。	
株主還元	配当性向30%を目安とする。	

以上